

基本方針		重点施策/事業計画					費用・資金調達	備考	作成担当	想定関係者
主な活動	2025年末までの方針	大項目	小項目	タイミング	優先度	推進体制				
当事者サポート	現行 コミュニティサイト運営	●23年中に運営マニュアルを整備→GRANTへ依頼しよう。	コミュニティサイト、各種交流会の目的や狙い、対象者の定義や、参加上のルールを明確にする。	目的の明確化、継続する事の価値(ASPJ側・参加者側)の明文化	2023年度	高	参加者から見た「現状維持」とし、大きな変更は25年度以降に持ち越してはどうか	●鈴木仁美さん ●土屋光子さん	現状維持	目的の明確化、継続する価値は何か(誰にとってどんな価値かを言葉にする)、現状の運営で困っていることの洗い出し。参加してよかったという人の「共感ポイント」はどこにあるか?アンケートを実施してもよいのではないかと。いつ参加しても同じ満足度になるように運営を安定させる。参加者のアンケートや声から、共感、発見、安心などキーワード出しを行い、期待を裏切らない。
			※誰でも同じ言葉でこの活動を話せる状態を目指す	対象者の定義、参加者のルールなど、利用者の居場所として皆が気持ちよく参加できるルールを明文化し、参加者に共有する。その後は、いつでも誰でもみられるように格納場所を共有。	参加者の満足度を集約して分析する	2024年度				
	定期交流会(オンライン)		オンライン交流会の目的や狙い、対象者の定義や、参加上のルールを明確にし、運営体制を構築する。	継続することの価値(ASPJ側、参加者側)の明文化、運営マニュアルの整備、参加者の満足度の調査、資金の流れ(ウィッグプレゼントへの活用)の見える化	2023年度	高			オンラインサロン月額500円参加者3年後に300人(500円×300=150,000円/月1,800,000円/年)この費用を子どもへのウィッグプレゼント、ウィッグコンシェルジュ育成に充てる。	目的の明確化、継続する価値は何か(誰にとってどんな価値かを言葉にする)、現状の運営で困っていることの洗い出し。参加者にアンケートなどを行い、満足度を調査し、必要なら改善を行う。いつ参加しても同じ満足度になるように運営を安定させる。
			組織内外へ資金の流れの見える化	運営マニュアルはGRANTへ依頼。	当事者以外も参加できるオンラインイベント、多団体とのコラボイベント着手。23年に運営面が落ち着いたら、参加者を増やすための活動開始。参加者300人を目指す	2024年~2025年度				オンラインサロンとウィッグプレゼントの関係性を組織内外へ明確にし、特に参加者にとって透明性のある費用の活用をしていることを明確にする。
子どもへのウィッグプレゼント			子どもへのウィッグプレゼント事業の運営体制構築	ウィッグコンシェルジュのノウハウを整理し、23年度中に担当のみで運営を目指す。	2023年度	高				オンラインサロン担当者との連携が必要。
			オンラインサロンとウィッグプレゼントの関係性(お金の循環)を組織内外へ見える化する。	目的の明確化、なぜ、何のためにプレゼントをするのか?継続することの価値(ASPJと参加者それぞれの視点)は何かを明文化する。参加者にとって、このプレゼントを境に気持ちに変化があるか?追いかけて効果測定を行う。	2024年度					ウィッグコンシェルジュ育成準備は、サロン運営とは別途で進行。
SNS運営			SNSの運営体制構築。オウンドメディアとしての活用。	インスタをベースに、Twitterをダイジェスト版とし、運用開始。テーマを決め、定期的な発信で、ASPJの活動を見える化し、認知度を向上させる。運営の仕組み化、担当者を複数に。2年間でフォロワー1万人を目指す。テーマに対して1万人のフォロワーをASPJの活動の支援者へ繋げていく。インスタ広告なども視野に。	2023年~2024年度	高			必要なし	1万人のフォロワーをASPJの活動の支援者へ繋げていく。インスタ広告なども視野に。週1回または隔週ペースでアップ。まずは6カ月の計画を立てる。インスタとTwitterは同じ内容でアップする。3か月運用してPDCAを回す。運営にあたり、個人情報の扱いルールを決める。
			個別相談	現在の取組み内容の可視化	相談者の属性や相談内容、アセスメント手法	2023年度				
撮影会・ウィッグ試着会			運営の仕組み化	アセスメントや相談手法の定型化と共有化	2024年度					
			伴奏型支援のトライアル	メンバーの人材育成、外部団体等との連携強化	2025年度					
新規	ピアサポート	●23年中に方針を具体化 ●24年にはピアサポート、専門家連携のトライアル ●就労支援、居場所づくりは、他の活動との優先順位を踏まえ検討	マニュアル作成	必要な役割を洗い出し、どのメンバーがどの部分を担うか決める。	2023年1月まで	必須				ウィッグ試着交流会でもウィッグコンシェルジュ必要か(杉山さん)
			運営手順のマニュアルを作る。	2023年6月まで	できれば					
			その後、メンバーにマニュアルに基づいてタスクを担ってもらい、運営方法やマニュアル記載方法等の改善を図る。	2024年度						
			次期リーダーによる運営体制構築	次期リーダー役を担うメンバーが自信を持って活躍できるよう体験を積む機会を確保	2023年度					
東京以外の地域を含めた多拠点化			全体を通じてメンバーが担うタスクの割合を増やし、土屋さん不在の状況をつくり、次期リーダーが主体的にリーダーシップをとる機会を確保	2024年度						
			次期リーダーによる実施体制のスタート	2025年度						
ピアサポート事業の開始			東京以外の地域で実施チームを組成する	東京、関東、大阪、東北、九州等の各地で年2回の開催を目指す	2024年度					基本情報シートによると関東関西2拠点事業所が想定されているが体制構築可能か
			ピアサポート事業準備	ピアサポートに協力いただける心理士の確保	2024年度					
			ピアサポーターに必要なスキル定義、育成教材の検討・準備	2024年度						
			ピアサポートのトライアル実施および評価	2024年度						
			ピアサポーター候補の募集	2024年度						
			ピアサポート事業の開始	ピアサポート事業の運用開始	2025年度					
			ピアサポーター育成プログラム開始	2025年度						

主に土屋さん



